

木下景惟漢詩

三卷



特別
^ 13
3656
1





序

鑿倉大系圖る豊竹乃

葉末ひろき。源判官乃子孫

蝦夷はゆつゝの篇なりきれる

産り実りあふぬる。海多岐人



13
3056
1

大系圖る豊竹乃

中二

茶の價ハ梅もさひぬび記書カ

店とせある小判こばんとかけりある

うたはのつひあひ摩ま東高賞

中三

私人せんとくの身術みじゆと教つらか入がの室むろ

田舎傾城いんがけいせいの道中みちちゆうハとり

ありぐはととり箱はことあとの使つかひ

① 仙人せんじんとりふハ費つぎ事ことの男おとこ

唐子たうし西せい古こ硯えんと談だんは字じ事ことハはさくはよりては

くひ移うつく硯えんハ相あひは向むかはせはさうね花はな事ことと保たもつの税ぜい

あり。なまなま假か夷えいといなるハ東とう北ほく方ほうの山さん島とうありて海うみ小せう流りゅう

より程ほど多おほく。中ちゆう心しんも松しょう雨う羅ら選せんとりふ俗ぞくより赤あか假か

夷えいありて其その中央ちゆうおうハ都みやこ。じうじう日本にっぽんの君きみ源げん義ぎ経けいハ

ふへりしより移うつひ。仙人せんじんその費つぎ威いハ根ね。大だいまうと

あがめ其その十六じゅうろく代だい月げつと占せん番ばん城じやう瑪ま瑯らう耶や松しょう王おうと。唐たう人じんの假か

靴くつの板いたな号ごうハつうきなれども先せん祖そ義ぎ經けい玉ぎよの遣ついで凡ぼんとちり。

何なにも旧ふる本ほん風ふうありて正月しんげつの儀ぎ式しき難なん費ひ門かど松しょうハより及およ

び名な近ちか大だい黒くろ海うみはありし。四よ万まん員げんも。ちんひんえりしん

ほんでんと。諸音いふれども。文句のなから。人龜井。序思。何
皆。孫河。その弁。義經王より。お侍の。下。子孫。いびり
元日の。西。と。あ。さ。き。ん。こ。も。う。ら。い。ん。ひ。う。く。と。お。一
々。れ。ど。瑪。瑠。耶。松。王。松。花。在。り。て。こ。が。先。祖。義。經。王。ハ。り。と。日
本。中。て。い。ば。お。頼。朝。の。中。の。大。な。れ。た。徳。即。よ。な。ご。て。ら。せ。軍。切
む。う。く。け。徳。よ。ま。ご。り。あ。よ。と。い。た。故。國。と。ま。れ。ぬ。心。の。操
昭。々。の。風。俗。と。た。ら。と。び。あ。な。い。ま。に。至。て。ま。の。め。と。い。ふ。
年月。も。ま。ん。ご。遠。さ。れ。ど。お。ち。ぐ。と。る。も。も。多。う。ら。な。り。何。を
高。村。日。本。の。風。と。の。ま。ご。う。る。お。わ。ら。ぬ。め。り。て。保。つ。ら。り
の。分。と。い。ふ。さ。ん。ら。と。物。々。れ。ぬ。持。身。忠。房。が。末。孫。柳。押。大。丈
松。南。と。こ。出。て。ひ。の。西。先。祖。義。經。王。と。祀。ら。せ。め。ぬ。波。馬。李。馬
皇帝。の。社。ハ。旬。よ。さ。け。し。と。ん。く。う。る。花。つ。つ。し。よ。り。と。ま。り

な。く。系。統。つ。つ。海。と。ま。ぐ。一。お。と。い。ま。を。初。友。等。あ。わ。し
と。松。子。と。ま。ん。心。目。本。人。の。中。と。う。え。委。わ。か。つ。ご。ら。申。あ。り。ぬ。
これ。と。め。され。流。る。り。や。と。や。と。ま。さ。む。何。あ。も。せ。よ。あ。わ。し。と。い。は。し
それ。より。いつ。と。系。統。する。時。刻。と。ま。り。せ。流。は。つ。て。停。路。と。い。ふ。
後。流。龍。々。池。音。南。友。ま。う。り。む。う。ひ。た。れ。ぬ。け。つ。て。被。殺。西。陣
流。の。綿。純。と。い。ふ。ま。ご。う。お。織。と。着。し。杖。よ。せ。が。ら。社。あ。ま。は。く
ぶ。ひ。お。ま。さ。り。お。と。音。南。友。洞。と。う。け。せ。ま。後。い。つ。め。り。人。あ。ま。さ。ん。く
ハ。系。統。と。う。る。や。大。王。の。り。の。西。徴。あ。り。ど。い。わ。く。日。た。や。旬。し
と。い。ふ。ま。ご。ん。の。系。統。と。う。ら。く。と。ま。ぐ。一。今。の。物。と。う。か。ら。や。さん
義。經。と。い。は。く。し。一。孝。隆。坊。海。と。い。ふ。あ。の。あ。り。貞。光。一。殺。の。初。ハ
ま。ご。う。の。ま。ご。京。都。へ。つ。わ。ら。ぬ。事。あ。り。て。ま。ご。り。の。わ。り。一。後。ま。り
合。戦。と。い。は。く。や。ら。け。つ。せ。う。れ。た。ま。ご。の。西。う。ち。死。と。い。ふ。と。い。ふ

一ノノノノノノノ

一



あまのついで

あんなんば
ひらち坊

ひらち坊
ういぞん
あまのついで



あまのついで
あまのついで
あまのついで

あんなんば
ひらち坊
ういぞん

あんなんば
ひらち坊

ひらち坊
ういぞん
あまのついで

かぬよるぞでござれど義経公の御経しうけめりりかやうよ
兼つし。びうへの何とぞ他人とね止りりり。往美の死ひてこそ
ござれしんむ。汝はよとららる青南友もよとむさうら志う
どませおと瑪瑠耶松王への目えへとねびいやされねと四色。
海をまわくとして。何とも西月さいりまでござる。義経公の一代
も。先ぞ海をまわくし。抽しよねの体とてさねむ。常もつこつて
仙人よあるし。よあぶくく。むとつらぬりのでまされをあらぬ
けられむ。武士のとの恥辱いふあるべし。唐古あも仙術と子
みかあせども。がしつめのいよめて習うべし。批ふあどが
ぞ。仙とありし。花ぞこひひと。りのおく。船とありてし。い
そ。い。あ。ま。れ。れ。も。り。は。れ。あ。も。お。ほ。し。し。り。し。り。何とも西月あく
月もも。神びい。や。ま。び。と。く。れ。れ。ど。青南友とららる。ま。づ。さ。命。い

れで。さ。の。体。ま。れ。れ。ど。このと。甲。下。を。さ。ね。う。ま。う。い。ま。の。の。わ。の。ら。
そのれで。さ。の。ろ。ろ。し。り。い。鼻。の。下。の。ま。づ。の。人。よ。は。れ。ら。ま。る。露。の
ふ。年。鬼。い。り。の。心。ま。の。の。ま。生。何。の。羽。ま。ら。り。と。ぞ。や。と。り。や。ら。と。
青南友を。ね。よ。つ。ご。さ。い。れ。れ。ど。瑪瑠耶松王。の。元。ら。り。く。め。され。
鼻。の。下。す。あ。る。人。の。鼻。の。下。の。一。ま。ら。り。その。つ。り。と。い。く
か。ん。が。よ。き。と。その。方。い。か。よ。そ。こ。百。葉。の。つ。り。き。き。と。鼻。の。下。に
す。も。め。の。へ。ま。よ。あ。ひ。の。か。ら。ら。ら。れ。い。う。と。と。ま。せ。あ。む。だ。海。を。大
こ。よ。あ。り。が。り。も。の。り。あ。づ。む。り。の。浦。傳。を。あ。い。せ。る。葉。と。た
り。の。と。り。あ。れ。れ。鼻。の。下。七。す。あ。る。人。し。び。つ。り。と。その。鼻。の。ま
させ。人。あ。ら。べ。し。ま。ら。く。さ。や。う。の。人。ね。よ。り。あ。り。し。も。い
ま。づ。ら。う。く。く。ま。せ。り。の。い。り。と。と。命。よ。と。ざ。り。ま。ま。れ
だ。義。経。公。の。い。び。ど。き。合。戦。の。大。お。あ。り。よ。り。さ。ら。く。さ。ら。う。よ

中をいんや痛者と云ふはあらずと云ふは
 つらあぞ。さめぐの病人はあらず。二貼止後づの價
 とわして来るふかの倍うもさうく。とさみ花の蓋よつこ
 とし一葉と。よあそり此花。さりのたのよみさるふ。十
 貼よせつこ。八つこつ。二包うこつ。みいりやう
 中てもつた。下へおらる。ゆん。徳人。壽夫の。せひとありし。
 あり。有。さ。や。と。葉代。の。お。ま。加。減。の。百。又。つ。も
 さ。と。さ。る。す。は。ひ。ろ。す。り。毎。日。又。十。貫。六。十。貫。の。錢。と
 ち。て。や。り。た。ん。と。大。坂。よ。西。の。か。ま。と。り。子。芝。居。掛。の。男。是
 不。ど。り。う。け。あ。く。い。時。ま。よ。あ。れ。行。る。高。ら。お。ま。あ。ぶ。ぐ。ん。
 その。う。親。代。の。醫。者。が。葉。へ。の。か。い。て。授。年。学。問。と。ん。げ。こ。
 いろく。の。書。お。と。ん。が。て。え。さ。あ。治。ら。ぬ。し。つ。が。ん。は。ぬ。て。い。

ゆ。ぬ。痛。お。い。ま。よ。い。う。ま。神。仙。の。告。じ。と。て。養。申。の
 少。は。い。り。あ。て。も。か。り。し。や。松。林。より。救。医。名。の。方。う。病
 小。り。て。の。お。後。お。ま。は。ま。の。と。の。ま。ん。で。居。る。け。世。界。へ
 作。ら。め。の。ま。後。お。て。常。よ。ま。う。ら。を。れ。も。親。者。の。ま。へ
 づ。つ。ま。し。ら。小。細。ひ。と。ら。が。室。の。山。と。見。へ。り。是。能。く。せ。ら
 待。ひ。か。り。て。廣。い。大。坂。で。ひ。ろ。め。う。た。ん。こ。と。あ。い。む。君。の
 待。り。の。ハ。増。あ。る。と。さ。ら。と。之。里。の。た。と。よ。道。札。地。より
 八。さ。ん。と。さ。ち。り。れ。ん。於。飯。ら。ま。て。ゆ。ら。る。よ。ま。と。屋。す。ま。よ
 場。へ。急。ぎ。小。路。の。急。を。徘徊。ま。ら。う。ら。そ。る。親。者。の。法
 通。う。じ。や。と。人。の。山。へ。て。孫。の。名。を。つ。も。あ。ぎ。親。者。の。後
 熱。の。は。し。の。ど。く。ある。と。か。葉。つ。わ。て。あり。と。何。も。西
 山。よ。う。い。あ。さ。葉。葉。も。と。ろ。く。は。世。代。は。あり。と。養。海。の

さん。後手の大巻をへつしゆさ。あつてもさぬく
 のほさるまをとりおして。傍をりてあつてさうしうのち
 しくやさんよの術にかくのどろでござる。何とさうし
 てもんのとがめぬとりよる。又およごりまはすい
 かのとつた。傍をらうよおとちれたがる奇術ハまはすま
 あらうら。何とそわ指ぬたのまをまづるよのときさ
 ありふあはあ術の。親吉のゆり業の引つくとつら
 ぬまゆをかく下されよ。引うまうとさんとつてあまが
 さそくさのどんあ智めて。よあのゆり際をど中く。
 よああ親吉のふ能でも。まづるまよあはさうらむ。
 たがひは術とりさつて。つとねよあうらう。や。おえ
 へやどりてそつた。あつて。切米し。碓とらうよ。傍

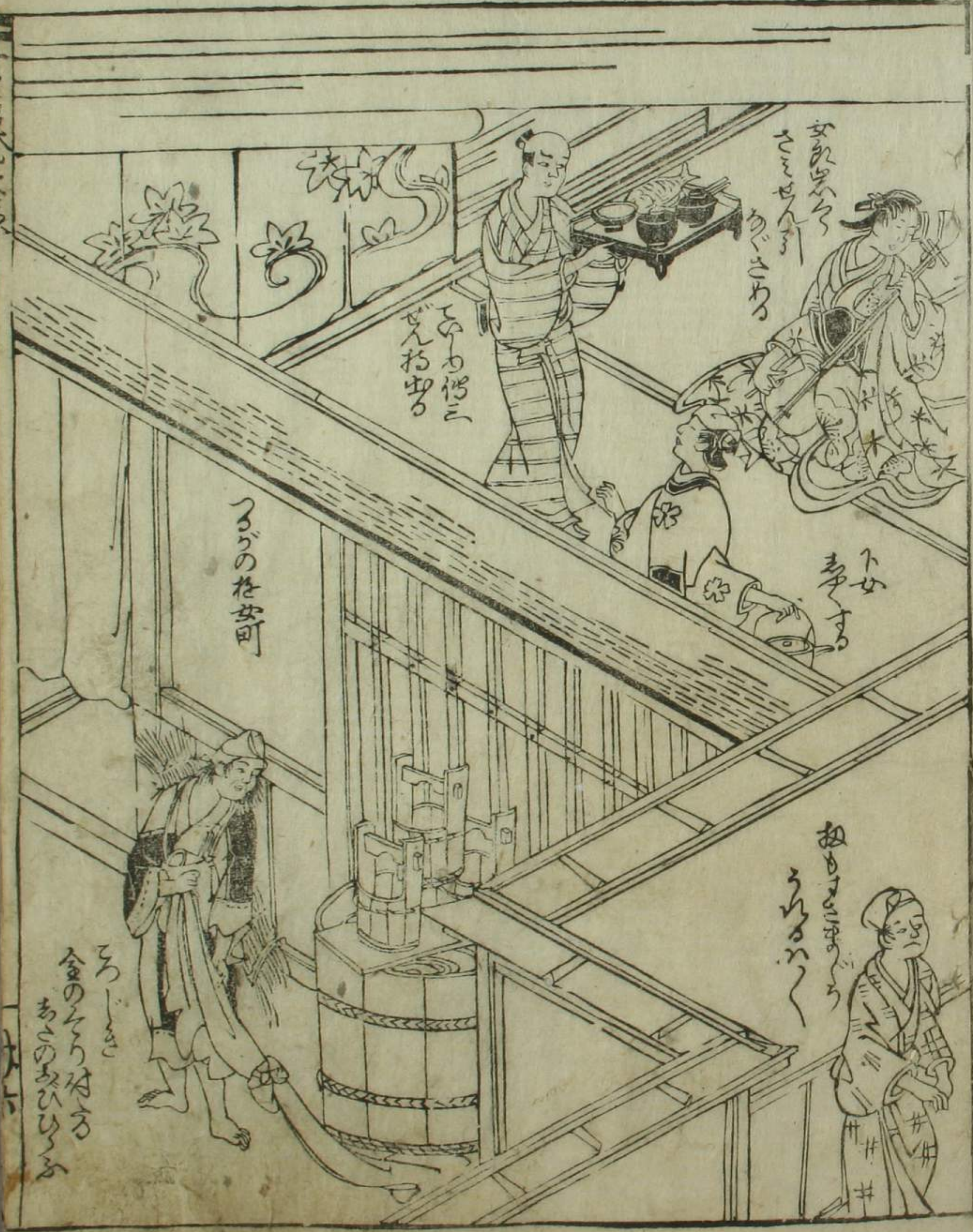
扱のゆひのこさだ。たがひよあてとりかちし。たれだ。あ
 とあうさう。く。あつて。術よあつて。い。あつて。い。あつて。い。
 べりふ。傍も宝と地らるん比し。宿あまうりかの
 一通とひうさるんまむ。一茶うしよ。戒後人ゆき。茶を
 日又お人お射し。今まうらう。あつて。のら。経つまを
 同。あつて。何ととりて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ね。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 分二ハ返り。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ちあつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 扱。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 のあり。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 られら。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

運うん返へんまるまる。船ふねくくりりもも。ちちりりひひふふりりててりりららゆゆれれんん。人
のああままひひよよゆゆくととままりりははままれれどどもも。自じ殺ころへへゆゆららぬぬ。舟ふねをを念ねん念ねん
ささううととりりてて志しののひひよよ。東あづま内うちのの氣き候うききすすててハハももががささ
んん。びびりりののややくくわわとと物ものぞぞよよままつつけけてて。ままああててハハををののささけけをを
ああささととくく。ふふぢぢりりおおままららががたたららししとと放ほうてて。船ふねのの炊く奴にやををささ
ままとと一いつつをを。熱あつののみみととめめををおおちちりりららんん。奥おくよよ何なにぞぞままががああてて
ずずととよよててももおおぼぼんんもも。それそれふふくく。ほほりりととてて。比ひ布ふ切きりのの原はらちちらら
がが庭にわ屋やのの宿しゆくへへややううれれとと文ぶんよよ書かててああららとと。おおひひややととてて途みち
んんててのの故ゆゑののううれれままららととぞぞれれどど。むむううのの物ものををおおりりととままりり
とと。ああままてて後のちののおおととりりややすすももああららずず。船ふね人ひとのの足あしぬぬららしし。乾かわ
涸かわままななままてておおららりりととれれどど。おおななららずず。憐あはれれれのの女をんなららいいてて。船ふねがが
ここぬぬぐぐととままととぬぬままかかどどんんままららりり。ううぐぐれれめめめめががああるるぞぞ。

敷敷ののたたののここももああらられれざざううんんまま。ままよよいい解かいをを做したたとと
すすんん。ああげげややままてておおむむりりららべべしし。ままららううけけややままんんととのの奥おくよよ
ああままもも松まつのの人ひとままああととううててああららととららににああままくくててららいい
とと。熱あつののみみづづららととささううてて。ままああ熱あつをを掬あのの下したららたたええ
結むす。これこれららののああままををりりままんんももああららしし。ちちよよししととままとと。ままららうう
ハハげげのの返かえりりすすよよままらら。ああままででままととつつふふんんももつつふふんん。位いををめめれれ
のの守まもりりとと一いふふよよ代しろへへつつれれてて。船ふねよよううけけららゆゆららががざざりりたたくく。
想おもいいままうういい。船ふねがが風かぜ待まちひひままどどららととてて。ああままひひああくく出でりりけけらら
ままららふふりりととままいいんん。ああららううままははいいててああままをを。子こ細こららししくくつつああととささ
おおととららぬぬハハ。ままららハハななががんんままららりりままああららずず。船ふねよよ。さされれももゆゆくくまま
ととひひそそままりりととささいいんんののまま。ううままののまま。船ふねのの本もと。船ふねおおかかぬぬ。苗なののふふ
ややりりままれれももみみららうう。又またハハ親おやをを代しろのの真ま宗むねななれれたた。長なが月つきいいととしし

三ノ巻

七



女歌あはく
さしせんと
あはさわる
このおぼこ
せんおゆる

つらうのた女町

ト女
あする

あまのまじり
うらなひ

あつしき
金のそり付る
あこのあひひるふ



大かへぬえ
あまのあはる

きまり笑
とこおお

あまのあは
くすのあ

あまのあは

あまのあは

あまのあは

十ノ六

